



## Vol,13 2015年 新年号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い「よぐ来たのお」珍しいタカたち  
イヌワシってどんな鳥？「換羽」  
あわや遭遇！「鳥海山動物調査報告①」

『チュウヒ』最上川河口鳥獣保護区にて  
撮影：長船裕紀

# 「よぐ来たのお」珍しいタカたち

あけましておめでとうございます。元旦からハヤブサを見ることができ、何か今年はいいことがあるのではないかと期待を膨らませているのですが、トビやノスリもタカには違いありませんので、皆さんも新年から近所にお住いのタカやワシを観察して縁起の良い気分になるのも一興じゃありませんか。もしかするとこんな奴らに出会う可能性だって無いわけではないですよ！さあ！今年こそレッツバードウォッチング！

## ハイイロチュウヒ

まれな冬鳥としてやってきます。オスは鮮やかな灰色をしていて、翼の裏側は白と黒のはっきりとした色です。夏は北極圏を除くユーラシア大陸北部に生息しています。



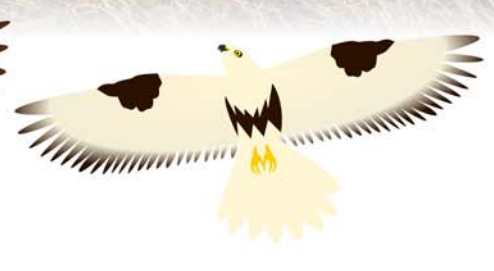
カタグロトビ

大きさはハト程度と小さいトビの仲間です。名前の通り翼の中間に黒い模様が入ります。赤い目をしています。普段はニューギニアなどに生息していますが、極々稀に日本にやってきます。しかしこれまで国内での確認は数える程度の、「超」がつく迷鳥です。



カラフトワシ

一見イヌワシにそっくりですが、上面に見える雨覆い羽に白っぽい半月模様が並びます。尾羽の付け根にも白い模様があります。また尾羽は非常に短く、木に止まると翼で見えない程隠れます。これまで国内で毎年確認記録がありましたが、近年はなかなか見られないようです。



オオノスリ

名前の通り、身近な猛禽類ノスリの大きい版です。ノスリ同様におなかのはらまき模様が特徴的ですが、同時に判断に迷うポイントでもあります。普段はモンゴルなどに生息しますが、冬鳥として西日本に飛来することがあるようです。

冬期間これらの猛禽類を剥製にて展示していますので是非ご来館ください。



## イヌワシってどんなワシ？⑫「イヌワシの換羽」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何？と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいるかと思えます。そこでシリーズ12回目は「イヌワシの換羽」について紹介します。

寒くなってきましたね。ここ山形県も冬まっただ中で、鳥海イヌワシみらい館の室外温度計も-7℃なんて表示されることもあるくらいです。寒い寒い。

さて朝の通勤途中で、川を見ると無数のカモたちが群れをつくって浮かんでいます。これも庄内の冬の風物詩ですが、長い距離を渡ってやってくるカモたちが一時飛翔不能になるってご存知でしたか？カモは一斉に換羽（羽が生えかわること）が起こるために、その期間、一時的に飛べなくなる期間が存在します。これは「渡り」をする必要があるカモたちにとって、20日間程度飛べなくなることを我慢すれば、長い渡りをするための完全な翼を一度に手に入れることができるので都合が良いわけです。では同じようにイヌワシにも換羽によって飛べなくなる期間があるのでしょうか？

否！飛行しながらエサをとらえて生活するイヌワシにとって一時でも飛べなくなることは死活問題です。イヌワシは春から秋にかけて、飛行に必要な羽を残しながら、少しずつ順番に生え換わらせていくことで、飛べなくなる期間をなくしています。冬期間は厳しい気候環境を乗り越えるために飛翔羽を完全な状態で残す必要があるためや、生存するエネルギーを使うために換羽を停止させることがわかっています。そしてまた春が来ると、秋に終わった場所の続きから換羽が再開します。

調査では、どこの羽が抜けているかで個体識別をすることがあります。（例）「P3番が抜けている」→（初列風切羽の内側から3番目が抜けている）など、翼と尾羽は思い切り広げると欠けた場所がよく見えますので、換羽の行われている個体については重要な識別ポイントになるわけです。

一部のアイヌ民族の伝承ではイヌワシの羽を拾った人には幸運が訪れるといわれているそうです。しかし自然の中で一斉に換羽をしないイヌワシの羽に出会うことはなかなか難しいことかもしれませんね。なんと大きな飛翔羽は3年も生え変わらなこともあるのですから！

イヌワシの羽や剥製などはワシントン条約で取引が規制されており、売買のほか、人に譲ったりもらったりすることには許可が必要となりますのでご注意ください。



例

矢印の部分の羽が抜けている（伸長中）



大きなイヌワシの羽



Ltl Acom O 048.1 009.0 10/22/2014 09:29:12

# あわや遭遇！

## クマに注意！



### 鳥海山動物調査報告その1

文・写真 長船裕紀

#### ● 自動撮影カメラを使った動物調査でツキノワグマを撮影！撮影時間からわかったことは・・・

鳥海山ワシタカ研究会（事務局：佐藤淳志宅）によって昨年2014年の秋から鳥海山南麓を舞台にイヌワシの餌動物生息調査が行われています。私も少しだけこの調査に参加させていただいております。調査はいたって簡単な方法で、自動撮影カメラ（赤外線センサーを搭載し、昼夜問わず動いた物に反応して自動で撮影が行われます）を設置し、一定期間設置後にメモリーカードからデータを回収するだけです。自前の自動撮影カメラも2台用意し、研究会メンバーとともに数か所に設置しました。その結果興味深い写真を撮影することができたのでご報告します。



刈り取り状況（背景に見えるのは鳥海山）

#### 調査の背景

調査地は鳥海山南麓の大台野地区（標高 600m 弱）で、かつては牧草地として利用されていた場所です。現在はススキが優占し、積雪期以外はイヌワシ等猛禽類などの上空から餌を探す捕食者にとって、とても狩りのしづらい環境となっています。



鳥海山南麓大台野地区の眺望

鳥海山南麓では2014年から楽天株式会社（株）のCSRとして山形県と山形大学が協定を結び、「楽天の森」と題してイヌワシの狩場創出及び餌動物の生息環境改善を目的に造林地の伐採が行われています（健康な森の再生）。うっべいした森林は薄暗く、ノウサギ等のイヌワシの餌資源が乏しい上に、草原性といわれるイヌワシにとって突入する隙間が少ないことで狩り自体が困難になります。先ほどイヌワシは草原性と表現しましたが、世界に分布するイヌワシの多くは、カザフスタンやモンゴルなどのステップ、北半球高緯度地域のツンドラや森林限界の高山帯等に生息しています。ニホンイヌワシは世界に分布するイヌワシ 5 亜種の中では小型で、もっとも森林生態系に適応した亜種とも言われていますが、さすがに 1~2m も伸びたススキ草地帯では簡単に餌を見つけ狩りをするのは困難なのかもしれません。すでにイヌワシの行動圏における狩場創出によって、イヌワシの繁殖成績が向上することが研究者らによって報告されており、少しずつですが各所で列状伐採等が行われています。

そこで鳥海山ワシタカ研究会は地権者らの了解のもと、当該地にてススキを刈り取り、作業道以外にパッチ状の開放地を作り、それにより捕食者からの視野が確保されました。本調査では、刈り取った場所を利用する動物の種類の把握や、刈り取り効果の検証も視野に入れ、調査が開始されています。

#### カメラ設置と結果

今回使用したカメラは通販で安いと 13,000 円ほどの安価な海外モデルです（▶写真）。今回の報告では、約 2.5m×約 25m に刈り取った作業道と交差する場所に設置したカメラで撮影した写真について紹介します。設置日は 2014 年 10 月 15 日～25 日の 10 日間で、457 回シャッターが切れていましたがほとんどが太陽の反射や風による揺らぎによってシャッターが作動し、動物（人間は含まない）を撮影できた写真は 2 枚のみでした。ところが、その 2 枚はツキノワグマの親子で、親グマの後ろをついて歩く子グマの様子が 2 枚連続撮影されていました。



自動撮影カメラの設置状況

#### ツキノワグマ親子のあとに・・・

野生動物以外では、設置期間にカメラの前を歩行した私と鳥海山ワシタカ研究会の 2 名計 7 枚ですが（設置・回収時の写りを除く）、撮影時間を見て面白いことがわかりました。ツキノワ

グマが撮影されたのは 10 月 22 日の午前 9:29~で、なんとその 3 分後の 9:32 に鳥海山ワシタカ研究会の佐藤氏が撮影されていました。撮影角度としては、ツキノワグマが左に向かい、佐藤氏が右に向かっています。佐藤氏はこの時ツキノワグマには遭遇しませんでした。ツキノワグマは少なくとも数十メートルの距離にいたかもしれません。人間の気配も感じていたかもしれませんね。



このように鳥海山をはじめフィールドに入る方には常に危険と隣り合わせであることを知ってほしいと思います。一方でそこはツキノワグマや彼らの生活を支える豊かな自然がある証かもしれません。人も野生動物も未永くこの大地に暮らしていけることを切に願う。今後の鳥海山ワシタカ研究会の活動にも注目していきたいと思っています。

# 庄内の動物情報コーナー

今シーズンは、根雪になるのが遅かった庄内ですが、おかげで各地で様々な動物の目撃情報が寄せられました。投稿していただいた方ありがとうございます。秋から冬にかけての庄内の動物達をお楽しみください。



2014/10月「コチョウゲンボウ」酒田市  
かわいい。目の下に伸びるハヤブサひげが  
何ともキュートです。  
撮影：酒田市 佐々木真一様



2014/11月「ハクチョウを追うハヤブサ」  
酒田市  
体格差をものともしない！勇猛果敢です！  
撮影：酒田市 佐々木真一様



2014/11月下旬「オオタカ幼鳥」酒田市  
最上川河口鳥獣保護区の王様  
撮影：長船裕紀



2014/11/25「カンムリカイツブリ」酒田市  
ネッシー？いや最上川だからモッシー。  
夕焼けを映す水面を泳ぐ姿は美しい。  
撮影：長船裕紀



2014/11/29/「ニホンアカガエル」酒田市  
こんな時期にカエルが！？最上川河口鳥獣  
保護区のアスファルト路面にいました。  
撮影：長船裕紀



2014/11/30「イヌワシ」酒田市  
ああっ！イヌワシが抜けていく～！  
撮影：長船裕紀



2014/11/30「きのこ収穫祭」酒田市  
定点調査中に差し入れをいただきました。  
今後とも何卒よろしくお願  
いいたします。撮影：長船裕紀



2014/12/20「テン」山形県庄内町  
今日、テンを見てしまった。目と目が  
もろに合って、まいった！  
撮影：長船裕紀



2014/12/22「ケアシノスリ」酒田市  
今年も見ることができました。驚きの  
白さ！  
撮影：長船裕紀



2014/12月「ハイロチュウヒ」酒田市  
庄内ではなかなか出会うことが少ない鳥で  
す。略してハイチュウ！本当に色合いがきれ  
いですね！撮影：酒田市 佐々木真一様



2014/12月「ハイロチュウヒ」山形県庄内町  
こちらは♀のハイロチュウヒ。♂に比べ地  
味ですが、各所にハイチュウである証がみ  
てとれます。むむ、今シーズンは飛来数が多い  
のか？  
撮影：鶴岡市 宇佐美信一様



番外編2015/1/3「アオバトの幼鳥」神奈川県  
可愛い！ほとんどが西日本で越冬するの  
ですが、関東でもわずかに越冬する個体  
がいるようです。美しい黄緑色のハ  
トで、鳴き声は「アー  
オー」。皆さん聞いたことありま  
すか？  
撮影：神奈川県 金子典芳様

# イベント開催報告

## ○「由利本荘市科学フェスティバル」に出展しました！

11月1日（土）秋田県由利本荘市で「第29回 国民文化祭あきた 科学フェスティバル」が由利本荘市で開催され、私たち鳥海イヌワシみらい館は「蜜ろうそくを作ってハチクマの秘密を知ろう！」と題して体験ブースを出展してきました。私たちの他に60もの体験・実験ブースが出展され、子供たちだけでなく一緒に来場する保護者にとっても楽しめるイベントでした。サイエンス手品などの楽しい実演ショーなどもあり、にぎわいました。

私たち鳥海イヌワシみらい館ブースでは、1時間ごとに時間を区切って開催しましたが、ほぼ毎回満員御礼の大盛況となりました。最初にハチクマに関するクイズをしました。少し難しかったのか意外と全問正解者は少なかったかもしれません。クイズ終了後に蜜ろうそく作りを行いました。「ワシ」を作るひともいれば、「かぼちゃ」「キノコ」「秋田犬」「列車」などみなさん個性的でどれも力作ぞろいでした。会場にはワッシーくんも登場し、広い体育館を練り歩いて鳥海イヌワシみらい館のPRをしました。

今回私たちの体験ブース「蜜ろうそくを作ってハチクマの秘密を知ろう！」には最終的に100人近い人たちが参加してってくれました。またいつか、このようなイベントに出展する機会がありましたら、是非遊びに来てください。来場して下さいました皆さん、由利本荘市実行委員会のスタッフの皆さん、温かく迎えていただきありがとうございました。



## ○出張展示「やわた文化祭展示部門」

### 「日向秋祭り」に出展しました！

10月25日（土）～27日（月）酒田市八幡地区の「やわた文化祭」に展示出展させていただきました。今年は夏休みに企画展示をしたハヤブサ展より、一部を抜粋して展示構成し、ハヤブサの生態を知っていただきました。ハヤブサおみくじが引けるイヌワシ大明神コーナーも設置して、多くの子供たちが遊んで行ってくれました。

翌日のイベント出演の関係でワッシーくんの登場は土曜日だけでしたが、遊びに来てくれた子供たちと記念撮影をするなどのふれあいがありました。

11月8日（土）も昨年に引き続き、今年も鳥海イヌワシみらい館のある、酒田市日向地区の秋祭りに展示出展させていただきました。展示内容は八幡文化祭展示部門と同様のハヤブサに関連した展示をしました。

またバルーンアートや地域の文化芸能、絵画や作品展などの様々な分野の方々と触れ合うことができました。

会場にはワッシーくんも登場し、子供たちと触れ合ってお祭りを引き立てました。



# イベント情報コーナー

## ○ワシタカ観察会「冬のワシタカ探し」

この時期にしか出会えないワシタカたちがいます。極寒の地シベリアから、オホーツク海を渡って越冬のために日本にやってくる大型のワシタカたちを皆で観察しましょう！

期 日 平成27年2月15日（日）  
時 間 9：00～14：00  
場 所 鶴岡市 大山下池（国指定大山上池下池鳥獣保護区・ラムサール条約湿地）  
集 合 鶴岡市大山公園駐車場  
定 員 先着15名  
締切り 2月12日（木）午後5時まで  
参加費 一人300円  
講 師 宮川道雄氏（環境省国指定鳥獣保護区管理員）  
持ち物 双眼鏡（貸出可）、昼食、筆記用具  
お申込み・お問合せ  
E-mail moukin@raptor-c.com  
TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）

※観察小屋での観察ですが、暖房などありませんのでスキーウェアやダウンジャケットなどの防寒対策をお願いいたします。



## ○環境省 鳥海南麓自然保護官事務所 ワシタカ観察会「最上川河口の鳥たち」

最上川河口鳥獣保護区は渡り鳥たちにとって、重要な中継地です！これらを狙ってやってくる猛禽類たちにはどんな種類がいて、どのように最上川を利用しているのかを探ります。

期 日 平成27年3月中旬（ホームページにてお知らせします）  
時 間 未定  
場 所 未定  
集 合 現地集合  
定 員 先着10名  
参加費 一人300円  
講 師 長船裕紀（自然保護専門員）  
持ち物 双眼鏡（貸出可）、筆記用具  
お申込み・お問合せ  
E-mail moukin@raptor-c.com  
TEL 0234-64-4682（環境省 鳥海南麓自然保護官事務所）



※スキーウェアやダウンジャケットなどの防寒対策をお願いいたします。

## ◇ハジロカイツブリが保護されました



酒田市の海岸近くで保護されました。写真のように緑便（絶食時に出ることがある）を出していましたが、健康状態に問題がないと判断され翌日放鳥されました。この時期県の救護所には主に傷ついたハクチョウ類が保護されますが、このハジロカイツブリは珍畜だったといえるでしょう。※当該施設は残念ながら傷病鳥を受け入れることはできません。各自治体にご相談いただきますようお願いいたします。



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

### 普及啓発担当

今年も新しいことに挑戦する一年にしたいです。（本）

### 事務局

謹賀新年。今年も観察会がお天気に恵まれますようにお祈りいたします。（村）

### 自然保護専門員

2015年も宜しくお祈りいたします。今年のイヌワシの繁殖はどうなるかな・・・サシバにも早く会いたいな・・・（長）

### 鳥海南麓自然保護官

庄内の地吹雪にびっくりしています。実り多き一年になりますように。（内）

## 編集後記 & 施設情報

### 鳥海イヌワシみらい館

#### 1月からの開館情報

お休み・・・1月・2月は（火、土、日、祝）  
3月は（火）が休館日となります。

開館時間・・・9：00～16：30

入館料・・・無料

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス：<http://www.raptor-c.com>  
〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com

### 鳥海イヌワシみらい館

